

学校運営協議会の話し合いから始まっているSCSC [◇: SCSCの価値]

事例1

○子供たちの安全確保のために

- ・学校運営協議会の話し合いから始まる。
- ・委員の人脈・交渉力 ⇒ 通学路の危険個所の解消

◇地域のことは地域で解決!! ⇒ 子供・大人の『主体的な意識』への転換

◇おらが学校、おらが地域の子供たち、おらが地域・・・自分たちでよりよく。子供に範を示す事例。

事例2

○職業人に聞く会（キャリア教育、職業体験）

- ・学校運営協議会委員が様々な職業の人を探し、交渉。生徒にそれぞれの職業について話す。
(委員の幅広い人脈・・・多彩な職業人)

◇「社会に開かれた教育課程」授業の充実、教員の負担軽減、地域の教育力の高まり。

事例3

○地域の子供に育てる

- ・公民館の文化祭で「お化け屋敷」

スタッフとしての中学生・・・中学生の活躍の場、担い手に。

文化祭展示に仕込まれたクイズをクリアしてからお化け屋敷に入場。(クイズを解く…人の関わり)

◇中学生にきちんとした役割が与えられている。子供や親が地域を知り、地域に関わる。

◇学校での学びは学校の中だけでは完結できない。学校での学びを応用する場を地域に作る。

事例4

○学校運営協議会からの発信

- ・学力向上との関連で、家庭で生活習慣を見直すように呼びかける。

◇同じ地域住民からの発信・・・共感 学校運営協議会ならではの発信が可能。

事例5

○地域の伝統芸能を授業で体験、バザー会場で実演

- ・郷土芸能保存会の方を招き、授業で体験する。

◇すべての子供が体験できる。郷土芸能保存会の方との交流もできる。

- ・多くの人が集まるバザー会場での実演。授業での経験を活かし演奏に参加する子も。

◇保護者を始め多くの人が郷土芸能に触れることができる。

事例6

○「こども110番の家」スタンプラリー

- ・「こども110番の家」の配置が少ない地区もあった。いざという時に子供が駆け込めるように「こども110番の家」を増やそう。

- ・授業で取り組み、設置したい店舗などを探した。「こども110番の家」を新たに設置。全校児童を対象にスタンプラリーを実施した。

◇「社会に開かれた教育課程」自分たちの考え方で「こども110番の家」を設置できた。(自分たちで社会を変えられる!という経験) 地域の人(110番の家)との交流ができた。